

令和 4年 10月 28日 (金)

みらいとびら 未来への扉



高等特別支援学校 支援部 第155号 支援部・福井 健二

今年度が始まって、はや半年が経過しました。ここ数年は、夏に異常な猛暑が続いており、気温はどんどん上昇し続け、台風や竜巻、暴風雨などの異常気象が増えています。この異常気象の主な原因は、地球温暖化です。桜(花)の咲く時期が変わったり、紅葉の色がきれいに出なくなったりと、地球温暖化の影響による変化はさまざまです。また、将来的には四季がなくなり、二季(夏・冬)の極端な気候になっていくそうです。あれだけ暑かった夏もどこに行ったのか、一気に朝晩はかなり寒い季節となりました。どうかお体にお気をつけてお過ごしください。

先日、香川大学・バリアフリー支援室の坂井先生の講演を聞く機会がありました。その時の内容をお伝えしようと思います。『障がい』と『自立』についてのお話でした。ADHDは一般的に『Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder』という英語の略語で、日本語では『注意欠如・多動症』などと呼ばれています。先生によると『A:あれこれするけど・D:大丈夫・H:はらはらするけど・D:大丈夫』だから、全く大丈夫なんですよと話されていたことが印象に残っています。

障がいは『参加や活動が出来ないこと』つまり、周辺環境を整えてあげると、参加や活動できるようになり、障がいは取り除かれることが多いということ。

自立とは、『身の回りの事が自分でできること』それに加えて、『人に助けをもらってできること』も含まれる。このことが大変重要であると話されていました。自分から人に助けを求める力を身に付けることが自立に繋がる。

次に、こどもの視点に立って考えることが大事。書けないのに、『書け』と指示するのは駄目。書きたくても、何らかの理由で書けないことがあるから。できない事を『やれ』は無理なこと。何で書けないのかを考えてあげる必要がある。それこそが周辺環境を整えるということ。

また、言い訳は聞いてあげる事。その上で次どうするのかをアドバイスすること。精神的ダメージを最小限にできるから。

総括して、その子が何に困っているのかを考えることが最重要であるとのことでした。

私が思うことは、子どもとは、一人の人として接することが一番大事なのではないでしょうか。上から見下ろして言うのはよくありません。こどもの目線で接すること。我々は、先に生まれて、いろいろ経験しているから、いろいろ知っていたり、できるだけのことです。

話は最後まで否定せずに聞いてあげましょう。親(教師)はいろいろ決めつけがちで、すぐ命令してしまいます。まずは、話をしっかり聞いたうえで、一緒に考えたり、アドバイス等をしていくべきだと思います。ただし、すべて受け入れるわけではありません。

心に余裕を持って接すること。余裕がなく感情的になっていては、冷静な判断が出来ません。余裕がない時ほど、余裕をもって。忙しい時ほど、慌てず、落ち着いて対応することが大事なかなと思います。

今後、高特の生徒たちの成長をサポートしながら、一緒に楽しく学校生活を送っていきたいと思っています。

SoftBank

やること & やりかたが目で見える

アシストガイド

困りごとを抱える子どものためのアプリ

このアプリはやること・やり方を目で見えるようにすることで、困りごとを抱えるお子さまが1人で行動し、本来の力を発揮できるようにアシストします。

※香川大学(坂井先生)とソフトバンク共同開発の無料アプリのご紹介です。(予定や持ち物の管理などをアシストしてくれるアプリ)

※興味のある方は左下のQRコードよりダウンロードしてみてください。

